

指導マニュアル：模擬試験 8 「環境問題と国際的な正義」

～「環境（価値）」と「開発（利益）」の対立から『相克』を学ぶ～

1. 指導のポイント

本問は、令和 4 年度の「技術革新と共同責任」の論理を、より具体的な「環境問題」というテーマに落とし込んだものです。先進国と途上国の「正義」のズレを、島根県立大特有のフレームワークで分析させます。

- **力の体系:** 国際的な環境規制、排出権取引のルール化。
- **利益の体系:** 途上国の経済発展、先進国的生活水準の維持。
- **価値の体系:** 「地球を守る」という普遍的正義 vs 「今を生き抜く」という生存の正義。
- **相克:** 環境保護（未来の安全）と経済成長（現在の利益）の非両立性。

2. 設問別の解説

- **問 1:** 「他国のせいにする」ことが、自らの「生活様式を変えない」ための免罪符になっている点（知的な怠惰）を指摘させます。
- **問 2:** 「環境を守れば経済が停滞し、経済を優先すれば環境が壊れる」という、どちらを選んでも痛みを伴う構造（相克）を言語化させます。
- **問 3:** 「遠い国の環境破壊」を、「自分たちの消費生活の鏡（自画像）」として捉え直し、自分たちの「正義（豊かさ）」をどう更新するか、という自己相対化を書かせます。

3. 生徒への声掛け

「『環境を守ろう』と言うのは簡単だ。でも、その言葉が誰かの『生きる権利』を奪っているとしたら？ この問題は、君の『優しさ』が、別の場所では『冷酷な正義』になっているかもしれないという、国際社会の厳しい現実を教えてくれるんだ。そこから目を背けずに考え抜こう。」